

建構學習歷程檔案之日語教學法 —以促進自主學習為目標—

廖育卿

東吳大學日本語文學系 博士生

摘 要

本研究以非日文系之學習者為對象，透過 18 週時程，進行以促進自主學習為目標，且採用任務導向學習、活動導向學習等以學習者為中心之理念規劃會話課程，依自我調整學習循環模式之學習歷程檔案製作為課程重點進行教學，並檢證授課期間學習者的學習變化。

學期之前後各進行了一次自主學習問卷調查，並分析學習日記，實踐結果發現，透過此課程，學習者的學習動機與學習反思等有顯著的提升；基於自我調整學習循環理論，「自我評量與監測」、「計畫與目標之設定」等二項有改善；而「學習策略的實行與監測」、「學習策略實行的評價與學習策略」，則因學習者的學習特性差異顯示不同的成效。而針對學習者的日文能力變化，將另稿討論。

關鍵詞：自主學習，自我調整學習循環理論，學習日記，自主學習問卷，學習檔案

A Japanese teaching method based on construction of learning portfolio - aiming at fostering autonomous learning

Liao, Yu-Ching

Soochow University

Department of Japanese Language and Literature doctoral

Abstract

In this paper, we designed an 18-week course for non-Japanese majoring students. The goal of the courses is to foster the students' Autonomous Learning interest and ability. We implemented mission-based, activity-based and student-centric conversations practice in the courses to examine the students' learning curve and to fine-tune the teaching contents according to the students' progress.

We conducted self-evaluations via questionnaire at the beginning and the end of the first semester. After analyzing the learning diary and questionnaires, we concluded that the students' learning motivation and self-assessment on the study showed significant improvement. Based on the self-regulatory cycle, we observed improvement in “monitoring associated with self -evaluation” and “goal setting and strategy planning”. However, “monitoring associated with strategy implementation” and “monitoring associated with efforts to adapt the strategy from outcomes” show different effects due to differences in learning characteristics of learners. Japanese conversation ability changes will be discussed separately.

Keywords: autonomous learning, self-regulatory cycle, learning diary, autonomous learning questionnaire, portfolio

ポートフォリオを利用する日本語指導法の一試み —自律学習を目指して—

廖育卿

東呉大学日本語文学科博士課程 院生

要旨

本稿は日本語を学ぶ非日本語専攻の大学生を対象に、18週にわたり、自律的な学習を促すため、課題遂行能力、学習者参加型活動などを取り入れた会話授業を実践した。自律循環モデル

(Self-regulatory cycle) が援用されたポートフォリオの構築を授業に取り入れることで、自律学習を目指す日本語指導法の試みであり、またその期間中の学習変化を検証するものである。

学期の授業の始まりと終わりに、自律学習調査票でアンケートを行い、学習日記を分析した。実践した結果、この授業を通して、学習動機、自己評価、振り返りへの意識の向上にプラスの影響を与えていることが分かった。また、自律学習循環モデルに照り合わせてみて、「自己評価とモニター」、「計画と目標の設定」に関して改善が見られた。「ストラテジーの実行とモニター」、「結果についての評価またはストラテジーの調整」に関しては個別的相違が見られた。なお日本語能力の変化については今後の課題にする。

キーワード：自律学習、自律学習循環モデル、学習日記、自律学習調査票、ポートフォリオ

ポートフォリオを利用する日本語指導法の一試み —自律学習を目指して—

廖育卿

東呉大学日本語文学科博士課程 院生

1.はじめに、

グローバル化が進む中、テクノロジーが発達すると共に、社会環境はもちろん、文化環境や教育環境など、様々な方面が変わってきている。時代が移り変わるにつれて、教育のあり方に求められているものも大きく変わっている。當作（2014）では、このような時代において世界の動き、問題を察する能力、高度の思考能力、問題解決能力、情報・メディア・テクノロジーのスキルなどが求められていて、自主性・自己管理能力、異文化コミュニケーションスキル、リーダーシップ能力と責任感などのスキルが必要となると主張している。それに応じて、e-ポートフォリオ（e-Portfolio）などの新しい形態の学習と評価が提唱されている。呉清山（2016）では、未来の教育の発展は個人化時代に入り、これまでの教育体制、行政、課程、教授、評価方式が柔軟性と自主性を持たないといけないと指摘している。

アジアでは、学習者が教師主導型の授業に慣れている傾向が強いとよく言われているが、教師主導型の教育環境で教科書の知識を中心とする教育が果たしてこの変化の激しい時代に起きた事態に対応できる学習者の能力を育成できるか疑問に残る。本稿では今までの教育の良さを維持しながら、足りないところを補う立場で、創造性・自主性のある教育方法の開発は学習者の発達において重要な課題だと考える。授業は教科書の知識の獲得、理解のみならず、学習者が自らの学習状況をモニターし、学力の向上のために自分に合った方法を選び学習を進める態度、つまり自律学習を身につけさせるべきだと主張する。なぜなら、このような自主性を身につければ、学校を離れても、生涯を通じて学び続け、問題にぶつかった時、適切な

解決方法で対処できるからである。

筆者は大学生の学習状況を観察してみると、受身的学習者が多いと気づき、主体的な学びを促す必要性を感じた。また、指導法としてそれぞれ学習者の能力、学習状況に応じた柔軟的で、かつ効果のある教育方法も取り入れるべきだと考える。そこで、本稿は自律学習を目指し、課題遂行能力、学習者参加型を取り入れた会話授業を行い、授業ごとの学習評価表、学習日記を評価、内省の一部として、ポートフォリオを利用する指導法を採用する。こういった一連の学習成果を示す実践プロセスを研究対象とした。自律学習循環モデルが提示される「自己評価とモニター」、「計画と目標の設定」、「ストラテジーの実行とモニター」、「結果についての評価またはストラテジーの調整」というプロセスを経て、自律的な学習が進められるかをチェックする。授業の事前と事後に自律調査票を使い、その間の変化を確かめることによって、効果を検証するものである。

研究課題は①学習者が授業ごとの学習評価表やポートフォリオの作成によって、適切に自らの学習状況を振り返って自己評価ができるか、②学習者に授業ごとに学習日記を書かせることで、できたことやできなかったことを振り返ることができ、次の学習計画を立てられるかである。すなわち、学習評価表、ポートフォリオ、学習日記などのツールにより、自律的な学習の成果を検証する。

2. 先行研究

2.1 自律学習に関する理論

Zimmerman, Bonner& Kovach (2000)では、学習者に自律学習を促すために、「自己評価とモニター」、「計画と目標の設定」、「ストラテジーの実行とモニター」、「結果についての評価またはストラテジーの調整」という循環が提示され、「自律学習循環モデル」

(Self-regulatory cycle) が提案されている。教師がこの自律学習循環モデルを利用し、学習者に自己観察や自己評価を引き起こさせ、目標により適切なストラテジーを運用させることができ、自律的な

学習が促されると認められたと述べている。本稿では、この自律学習循環モデルを援用し、台湾の日本語学習者のために、学習評価表と学習日記のコンテンツを構築し、授業のデザインと学習支援について検討する。

自律学習とは「学習者が自分で自分の学習の理由あるいは目的と内容、方法に関して選択を行い、その選択に基づいた計画を実施し、結果を評価できる能力である」と『新版日本語教育事典（2005）』

（pp.773-774）で示され、本稿は日本語教師の役割は学習者の学習を支援すると認めるため、上述の自律学習の定義に従い、論を進めることにする。

寺西（2003）はポートフォリオを学習者自身の「自己成長ファイル」として定義し、自分の学び過程での問題解決力、コミュニケーション力や表現力、実践力など「かかわり体験」に基づいたパフォーマンス（活動の知性）が重視されているとする。そして佐藤・他（2010）では、評価は学習者を選別したり、管理したりするために行われるものであると批判し、ポートフォリオの利用は「学習者が通って来た道のり」を評価の対象にし、（中略）より高いレベルに進めるために、何を、どのように学んだのかという学習過程に目を向けることで、学習を支援するための評価が必要であると主張している。

これまで多領域に渡りポートフォリオが開発され、目的によって内容は異なるが、学習者がポートフォリオを見返すことで、自律学習に対する意識を高めるという教育目的が共通している。本稿では、横溝（2000）、松本（2009）、當作・中野（2013）、當作（2014）の定義の共通点に注目し、ポートフォリオは学習者が目標に向けての実践過程の自己管理の側面に焦点を当て、「ある学習期間にわたり、学習目標の達成の努力、過程、達成度、成果を評価し、またそれらを蓄積してきた集積物となるもの」と定義する。

ポートフォリオの効果に関して、横溝（2000）では、「学習における振り返りの重要性」、「学びの過程の重視」として、短時間では

なく、「長時間の過程」を、部分ではなく、「全体」を、「結果」よりも、「過程」を評価しようとするのはポートフォリオ評価の良さとし、学習者自ら自己評価を通じて内省や自律学習を促進する「メタ認知」の向上が目指されている。台湾の日本語教育現場でもこういった学習の過程、成果における学習者の進歩の状況を管理させ、自律学習のための指導法が大切であると考えた。

また、當作（2014）では、e-ポートフォリオが教育に応用させることの可能性について、①多様な学習スタイルの学習者に対応できる、②学習の動機付けを高める、③テクノロジーの技能が身に付けられ、創造性を高める、④学習成果を外に示し、他人と分かち合え、コミュニケーションの力が伸びる、などのメリットが挙げられている。ポートフォリオの内容を充実させるため、台湾では、廖伯承・今福（2015）は、當作（2014）で提案された「パスポート型」¹を基に、「経歴型双方向」ポートフォリオを開発し運用した。その内容は①自己紹介や将来の目標、今まで取得した資格などを記入するパーソナルな項目、②学習者が今までどのようなことを勉強し、今どのレベルに達しているか、③最近どのようなことを勉強したか、自分の学習を振り返るための学習日記、④教師や他の学習者とインターアクションができるフォーラム（学習における悩みや質問を書き込むことができる）などの四つのコンテンツから構成されている。結果は「経歴型双方向」ポートフォリオの内容を充実すれば、学習者に自ら学習状況やまだ足りないところなどを意識させ、それを改善するような行動を起こさせる効果があると認めた。教師が学習者の学習状況や困難を把握することができて、適切なアドバイスを与えることができるとし、また就職活動にこれを提出するによって、

¹當作（2014）では、目的に応じて入れるものも異なるポートフォリオは、ベスト・プラクティスを集めて知識、能力、資質を示す「ショーケース型」、能力成長の過程を示す「成長型」、スキルごとの能力を示す「スキル型」、あるレベルを達成したことを証明する内容を集める「パスポート型」などの4種類に分けられている。

より魅力的な自己アピールができるなど利点があると述べている。

2.2 先行研究

自律的な学習を促進するために、行われてきた実践研究は、古賀（2007）、林盈萱（2009）、林盈萱・黄宏仁（2014）、片桐（2014）、などが挙げられる。

古賀（2007）では、学習のレディネスの差が大きい滞日日本語学習者のニーズに対応するために、学習者にそれぞれの学習目標を立たせ、振り返りシートを書かせることによって、自律学習がどのように養成されていくかを探った。分析した結果、①文法、助詞、漢字、語彙などの学習の必要性がある、②学び合えることに満足している、③学習項目や練習内容に対する気づきがあった、④学習方法に関して自らの学習の問題点に対する解決策や目標を立てる者がいるし、練習の必要性が大事であると思いつつも具体的な練習方法を述べていない者もいる、などが明らかにされた。分析で分かった問題点の解決に向けて、自律学習を促すには、学習環境および学習過程の意識化の「オリエンテーション」→目標の設定および自己評価の「振り返りシートの記入」→教師による・学習者間の「フィードバック」→「改善」という4つプロセスを経る活動例が提案された。

林盈萱（2009）では、台湾人の学習者を対象に留学生予備教育のために、学習ストラテジー、ビデオ教材やリソースの提供などを学習支援に導入し、自律学習を促すことを目標に、アクションリサーチを実行した。その結果、学習者が①留学生予備教育のカリキュラムに対してよい反応があった、②会話能力に関して自らの進捗状況を認識し、学習の進歩を感じた、③学習ストラテジーのトレーニングを受けて、学習動機が高まり、学習意欲が湧いてきて、情意的な面により影響をもたらした、④学習者の学習が自律的循環モデルの提示されているプロセスのように進んでいったという4つの成果が収められたとしている。なお、学習ストラテジーの実行において、「試行」、「適切なストラテジーの使用決定」、「行動持続」という段

階で進められることにより、かつての自律的循環モデルの6つのステップの修正を加え、「自己評価とモニター」、「計画と目標設定」、「試行」、「適切なストラテジーの使用決定」、「行動持続」「ストラテジーの実行とモニター」、「結果についての評価またはストラテジーの調整」、などのように9つのステップが提案された。

林盈萱・黄宏仁（2014）では、台湾人日本語非主専攻の大学生を対象に、自己調整学習理論を援用し、自律学習を支援するを目指して、学習ストラテジーを取り入れたタスクベース型の日本語会話授業を実践し、その成果を探った。具体的な方法としては、学習者のニーズやレディネス調査を行った上で、記憶ストラテジー、社会的ストラテジー、環境づくりストラテジー、認知ストラテジーといった4種類の学習ストラテジーを取り入れ、提案されたタスクベース型のコースデザインに基づき、授業を運営した。さらに、学習ストラテジートレーニングコースを実施し、学習者の学習にどんな影響をもたらすかに関して、「授業の満足度」、「学習ストラテジーの調整状況」、「会話能力の変化」などの3つの側面から考察した。その結果、①約94%の学習者が今回の授業に満足している、②自らの学習ペースに合っていて、昔より多様な記憶と認知ストラテジーを使うようになったと共に、学習動機も上がる傾向が見られた、③会話能力の変化について、単語の量と質を調べたところ、単語の数が増え、接続詞、引用表現、連体修飾などを使うことによって、文構成がより一層豊かになったことが観察された、などが明らかにしたとされる。また学習者の自己調整能力の継続的な変化やトレーニングされた学習ストラテジーの教室外においての運用状況に関しては今後の課題とされた。

片桐（2014）では、ポートフォリオに関するメタ認知や変化過程の結果を仮説モデルに提示するために、受講生がポートフォリオ作成や評価を行う過程において、ポートフォリオの教育機能と報告機能がどのように果たされるか、学習者の意識変化がどのようなになっているか調査を行った。その結果、積極的な態度のポートフォリオ先

駆者がと消極的な態度を持つ学習者の2種類に分けられる。また、授業の進行につれて、消極的な態度の学習者によりポートフォリオの活用に気づきが起こり、積極的に取り組むようになった者がいる一方、時間的余裕のないことを理由に、消極的なままで進歩がない者もいる。さらに、実践した結果に基づき、①文字の導入で習得が有効、②内省を高め文化理解を促進するために議論の場を設ける、③修了要件としてポートフォリオ評価を行うこと、の3つの提言が挙げられた。

これらの研究は、様々な学習環境の学習者を対象者に行われたコースで自律学習促進を目指してポートフォリオ利用の成果が報告されてきた。つまりポートフォリオ評価により、学習過程が可視化となることで、学習行動、自律意識が見られる。また、学習者の内省力、評価力が高くなり、自己評価と他者評価との総合的効果が見られ、学習にも繋がっているとわかる。

しかし、台湾で日本語を第二外国語として学ぶ場合は、自主的・自律的な学習を支援する研究がまだ少なく、より活発的に議論され、積極的に授業に取り組むべきであると考えた。特に学習意欲がまちまちで、言語能力に落差があるコースでの実践研究が必要と考えられた。そこで本稿は、学習者の自律的学習に注目しポートフォリオ利用の指導法を試みた。その内容物として、①授業中、行った教室活動の成果物や履歴、②授業後、学習評価としてのアンケート、③学習状況を振り返りの学習日記、④文字や音声記録などの宿題、など4つのコンテンツからなる。一学期の実践を通してどのぐらい自律学習が支援できるか、どのような結果が出るかを検討するものである。

3.実施概要

3.1 コースと時間

対象コースは、台湾の北部にある総合大学で、選択科目として履

修される第二外国語としての「日本語初級会話」A1 レベルの授業である。2016 年 9 月 15 日から 2017 年 1 月 12 日にかけて 18 週にわたって行われた²。履修者は 18 名³だった。

3.2 授業のデザイン

教材は指定教材の『みんなの日本語 初級 I』を使う。一課の内容を文法、会話、聴講に分けられており、それぞれ「初級日本語」、「初級日本語会話」、「初級日本語聴解練習」などの三つの授業として異なる教師が担当する。筆者は、会話練習を主な授業内容とした「会話授業」を担当しており、本稿はこの授業を対象とする。

自律学習を促すためには、授業運営では、「課題遂行能力」、「学習者参加型活動」、「問題解決型の学習」、「学習者中心の指導」といった石塚ら（2002）、小川（2015）の理念に基づき進める。教科書における会話文のパターン練習や代入練習のみならず、会話文における文型が応用できそうな場面での対話実践や Can-do のタスクなどを考案した。以下は課ごとにトピックと学習目標を示す一覧表である。

表 1 授業のシラバス

| 週 | 日付 | 課 | トピック | 学習目標 |
|----|-------|----|---------------------|--|
| 1. | 9/15 | | | 中秋の節句・休講 |
| 2. | 9/22 | L1 | 自己紹介 | 1.簡単な日本語で自己紹介ができる。 2.自分のことに関する質問に答えることができる。 |
| 3. | 9/29 | L2 | 1.お土産 2.持ち主探し | 1.お土産やプレゼントをもらった時に、相手に感謝することができる。 2.質問に答えることができる。 |
| 4. | 10/06 | L3 | 1.道聞き 2.国の居場所の紹介 | 1.場所がわからない時に、簡単な日本語で聞くことができる。 2.自分の国はどこにあるかを相手に話すこと |

²実際の授業回数は行事の休みにより、17 週間分となっている。

³日本語学科 4 名、企業管理学科 3 名、心理学科 2 名、情報管理学科 2 名、英語学科 1 名、法律学科 1 名、ホスピタリティーマネジメント学科 1 名、芸術創作学科 1 名、演劇芸術学科 1 名、マスメディアコマーシャル学科 1 名、ファッションデザイン学科 1 名などの学生からなる。

| | | | | |
|-----|-------|----|-------------------|--|
| | | | 介 | ができる。 |
| 5. | 10/13 | L3 | 3.日本の電子辞典はいくらですか。 | 3.相手に旅行の話聞きながら、旅行先で買ったものの値段を尋ねることができる。 |
| 6. | 10/20 | L4 | 1.そちらは何時までですか。 | 1.ある機関の開始・終了を尋ねることができる。 |
| 7. | 10/27 | L4 | 2.私の一日・旅行のある一日 | 2.日常や旅行先での一日のスケジュールの時間を聞くことができる。 |
| 8. | 11/03 | L4 | 3.私の一日・旅行のある一日 | 3.日常や旅行先での一日のスケジュールを話すことができる。 |
| 9. | 11/10 | L5 | 1.休みは何をしますか。 | 1.休みの過ごし方を聞くことができる。(いつ、どこで、何で行った、誰と、何をした、など) 2.発展：次の旅行の計画について |
| 10. | 11/17 | L6 | 1.一緒に行きませんか。 | 1.連休の過ごし方を話すことができる。 2.写真を相手に見せながら、相手と次の旅行の計画をすることができる。 |
| 11. | 11/24 | L7 | 1.特別なプレゼントの経験談 | 1.もらったプレゼントの情報を説明することができる。 |
| 12. | 12/01 | L7 | 2.私は～語ができる。 | 2.旅行先で学んだ言葉や外語人の友達に教わった言葉や外国語のドラマから聞いた言葉を紹介することができる。 |
| 13. | 12/08 | L8 | 1.台湾の観光スポット | 1.台湾観光スポットの特徴や有名な食べ物・物などを紹介することができる。 |
| 14. | 12/15 | L8 | 2.好きなところ | 2.かつて行ったことのある・好きなところを紹介することができる。 3.既習した形容詞で生活や旅行の感想などを言うことができる。 |
| 15. | 12/22 | L9 | 1.相手を誘う | 1.かつて行ったことのある・好きなところを相手に話して、そちらの食べ物や名所などを紹介することができる。 2.次に一緒に行く相手を探して誘うことができる。 |

| | | | | |
|-----|-------|-------------|-------------------------|---|
| 16. | 12/29 | L10 | 1.私の家 2.私の部屋の模様 | 1.うちの近くの情報を説明することができる。 2.部屋にあるものを紹介することができる。 |
| 17. | 01/05 | L11、 L12 | 1.行き先への交通方法 2.旅行の経験談 | 1.ある行き先はどうやっていくかを説明することができる。 2.海外旅行で経験したことを説明し、感想を述べることができる。 |
| 18. | 01/05 | 期末口頭試験 | | |

授業の手順は、①ウォーミングアップ→②導入→③練習・説明→④タスク→⑤学習評価シート（授業が終わった直後を記入させる）・学習日記（宿題に学習者に書かせる）という順で進める。

3.3 ポートフォリオ

ポートフォリオは数種類のものからなる。一つ目は表2のような学習評価シートであり、二つ目は表3のような学習日記である。

表2 学習評価シート

| | |
|--|-----|
| 年 月 日 | 名前： |
| 【 】 1.今日学んだ単語、センテンスを読むことができる。①全然できない、②あと少し問題があるが、自信がない、③普通、④大体できた、⑤よくできた | |
| 【 】 2.今日の教室活動ができる。①もうちょっと頑張りたい、②あと少し問題があるが、自信がない、③まあまあ、④大体できた、⑤全部できた | |
| 3.今日の教室活動で、できなかったことや失敗したと思ったことは： | |
| 【 】 4.今日の勉強に対して自分に評価を下すなら、①これから頑張らないと、②あと少し頑張ればできる、③普通、④大体いい、⑤よくできた | |
| 5.今日の授業について自分への一言は： | |

表3 学習日記

| | | |
|--|-----|-----------|
| 年 月 日 | 名前： | 自律学習循環モデル |
| ① 今日何を勉強したか。 | | 自己評価とモニター |
| ② 勉強して、楽しかったことはあったか。何が一番大変だったか。どうして？ | | 自己評価とモニター |
| ③ 分からなくて、困ったことはあったか。どんな時だったか。その時はどうだったか。 | | 自己評価とモニター |

| | |
|----------------------------------|----------|
| ④ ③を解決したか。どのようにして解決したか。 | |
| ⑤ 次の授業で何ができるようになりたい？そのために、何をするか。 | 計画と目標の設定 |
| ⑥ その他（授業の感想など）： | |
| ⑦ 教師からのコメント： | |

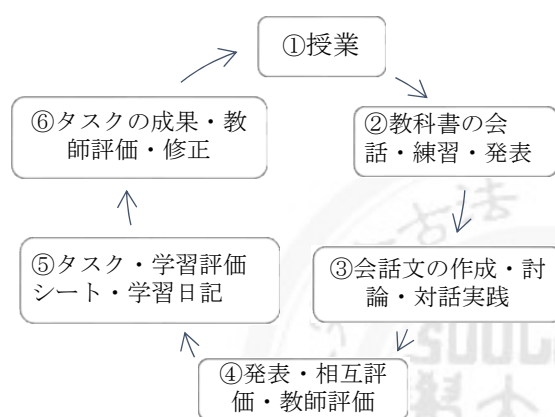


図1 フェイスブックによる学習サイクル

三つ目はフェイスブックである。フェイスブック（以下 fb）を使って、図1のような学習サイクルで学習が進められた。順に追って説明していくと、①教師がその課の学習目標を説明して授業を始める②教師が教科書の会話文を説明して、学習者に代入・変換の練習をさせて発表させる③会話文における文型が応用

できそうな場面でのセンテンス作り、会話文の作成を討論させ対話を行う。そして、できた成果を直ちに fb にアップロードさせる④学習者に fb で発表させてから、教師からフィードバックを与えるのみならず、皆で修正し、評価し合った⑤授業の最後に宿題としてのタスクを告げた上で、学習評価シートを記入させた。そして次の授業までに、タスクの成果、学習日記を fb にアップロードしてもらった⑥次の授業までに、教師がそれらを修正し、フィードバックを行うという順序で行った。

4.分析と結果

4.1 自律学習調査票

一学期にわたりポートフォリオを作成させることにより、学習者の学習状況と自律的な学習態度の変化を探る。まず学期が始まった際と終わった際に行った自律学習調査票の結果を見る。自律学習調

査票で「同意する、やや同意する、どちらとも言えない、やや反対する、反対する」の5段階選択肢でアンケートを実施した。自律学習調査票の内容は『新版日本語教育事典（2005）』（pp.773-774）の定義に基づき、表4のように構成し、結果は表5、6のようになった。質問の項目は「学習理由」（①）、「学習目的」（②）、「学習内容」（③、④、⑤）、「学習方法」（⑥、⑦、⑧）、「学習計画」（⑨）、「学習効果および評価」（⑩、⑪、⑫）の6つのカテゴリーに分けられ、12項目になる。詳しい項目の内容は以下のようになっている。

表4 自律学習調査票

| カテゴリー | 質問内容 |
|-----------|---|
| 学習理由 | ① 日本語を学ぶ理由がよく理解できる |
| 学習目的 | ② 日本語を学ぶ目的を知っている |
| 学習内容 | ③ 会話能力を向上させる学習リソースを選ぶことができる |
| | ④ 日本語で他人とコミュニケーションする機会を活用する |
| | ⑤ 興味のある日本語リソースを選んで利用することができる |
| 学習方法 | ⑥ 会話能力を向上させる学習方法を選ぶことができる（例えば、よく聞くこと、よく話すことなど |
| | ⑦ 会話能力を向上させる練習方法をうまく利用することができる |
| | ⑧ 学習で困っている時に解決方法を探すことができる |
| 学習計画 | ⑨ 具体的に会話能力を向上させる学習プランを立てることができる |
| 学習効果および評価 | ⑩ 会話能力を向上する学習方法を検討し、評価することができる |
| | ⑪ 会話能力を向上する学習プランを検討し、評価することができる |
| | ⑫ 全体的に会話能力を向上する学習効果を検討し、評価することができる |

学習者の記入した結果は表5と表6になる。

表 5 自律学習調査票の結果（質問①～⑥）

| 質問項目 | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ |
|------|---|------|------|------|------|------|------|
| 平均値 | 前 | 4.11 | 4.23 | 3.82 | 3.52 | 3.82 | 3.82 |
| | 後 | 3.82 | 4 | 3.76 | 3.47 | 3.88 | 3.94 |
| P 値 | | 0.17 | 0.33 | 0.79 | 0.80 | 0.77 | 0.60 |

表 6 自律学習調査票の結果（質問⑦～⑫）

| 質問項目 | | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑪ | ⑫ |
|------|---|------|------|------|------|------|------|
| 平均値 | 前 | 3.41 | 3.82 | 2.76 | 3.17 | 3.23 | 3.35 |
| | 後 | 3.82 | 3.58 | 3.35 | 3.58 | 3.47 | 3.64 |
| P 値 | | 0.04 | 0.29 | 0.07 | 0.08 | 0.29 | 0.26 |

前後 2 回の t 検定を行った結果、質問項目の⑦に有意差が見られた ($t = -2.13498$, $df = 16$, $P < 0.05$)。なお、質問項目ごとに「同意する」、「やや同意する」の割合を前後 2 回で比べると、約 6 割近く (58.33%) の質問項目 (⑤、⑥、⑦、⑨、⑩、⑪、⑫) の数値が上がっている傾向が見られた。

質問項目と照り合わせてみれば、「学習内容」、「学習方法」、「学習計画」、「学習効果および評価」に関して改善が見られた。つまり、学習者は授業を履修する前に比べ、「日本語で他人との交流の機会が活用できるようになった」、「興味のある日本語リソースを選んで利用できるようになった」、「会話能力を向上させる学習・練習の方法をうまく利用できるようになった」、「具体的に学習プランを立てるようになった」、「会話能力を向上する学習の方法・プラン・学習効果を検討し、評価できるようになった」などの意識が向上したとわかる。

数値から自律的な学習の意識向上の傾向が読み取れた一方、どんな練習方法を用いて学習を進めていったか、それぞれ具体的にどのように学習プランを立てたかは調査からは読み取れない。次節で学習日記から具体的な自律的な学習の歩みの詳細を考察する。

4.2 学習日記からみた個々の自律学習の歩み

学習者は自ら学習状況をどのように把握し、次の学習目標を立てたかを探ることで、学習日記に記録された内容を分析する。それぞれの記述内容を時系列に沿って見てみると、学習に対する評価のみならず、練習や学習の方法、改善点、次の授業でなり遂げたい事に関連するところを注目すれば、18名の学習者の中には、授業中の自らの学習状況を学習日記の項目に沿って、自らの学習状況を把握し、目標を立た。それを達成するために何かをしようとするタイプが見られた（S1、S2、S3、S4、S7、S8、S9、S14、S15、S17、計10人）。なお、ほかの8名は具体的な振り返りがなかったので、データとして使われなかった。表7～表16は学習者のそれぞれの記述である。

表7 学習者 S1 の学習日記

| 自律循環モデル | 日付 | 学習日記の内容の抜粋 |
|-----------------------|-------------------------|--|
| 自己評価とモニター | 9/22 | クラスメートとの会話練習がうまく行かなかったが、ゆっくり話せば、できるようになった。 |
| 計画と目標の設定 | 9/22 | 日本語がうまく話せるように、授業の他の時間で自主的に復習したり、予習したりする。 |
| | 10/6 | もっとうまく話せるように、カタカナを読んでおく。 |
| | 10/13 | もう少しうまく話せたい。 |
| | 10/20 | 先生が教えてくれることなら、何でも良いと思う。学ぶことが多ければ多いほどよい。 |
| | 10/27 | なるようになる。 |
| 結果についての評価またはストラテジーの調整 | 10/27 | 少し進歩したようになったと気づいた。 |
| | 11/10 11/17 11/24 | 平常心で授業に臨む。 |
| | 12/1 12/15 | なるようになる。 |
| 結果についての評価またはストラテジーの調整 | 12/22 | 楽しいことはますますうまく話せるようになったのだ。 |

学習者 S1 はほとんど毎回の学習日記で何かを学んだか、授業中他の人との会話練習で感想を記入し自己評価を行っている。うまく話せなかったことを意識し、改善するために、これから話すように頑張るという目標を設定した。その後、話すように努力している S1 は「平常心で授業に臨む」、「なるようになる」などの記録が頻繁に見られ、教師の指示や授業の進度に従い、授業を受けていた。話す目標に達成するために練習を重ねたとした学習者 S1 は自分が少し

進歩し、ますますうまく話せるようになったと意識していると見て取れる。

表 8 学習者 S2 の学習日記

| 自律循環モデル | 日付 | 学習日記の内容の抜粋 |
|-------------------|-------|--|
| 計画と目標の設定 | 9/22 | 中国語を学ぶように日本語もうまく学びたい。繰り返して読むことで 50 音を練習する。 |
| 戦略の実行とモニター | 10/6 | いつも予習して授業に来ている。 |
| 計画と目標の設定 | 10/6 | 会話のテクニックや文法がたくさん学びたい。 |
| 計画と目標の設定 | 10/13 | いつものようにもっと多くの単語が学びたい。 |
| 計画と目標の設定 | 10/13 | 読むことに励みみる。 |
| 戦略の実行とモニター | 10/20 | 教科書の単語をしっかりと暗記している。 |
| 結果についての評価または戦略の調整 | 11/24 | 予習しているので、自然と覚えるようになった。 |
| 計画と目標の設定 | 12/01 | 次の授業に出られないから、授業の進度に追付かないと。あと僅かの授業、頑張ろう。 |
| 計画と目標の設定 | 12/15 | 授業の進度に追いついていくように頑張ってみる。 |
| 計画と目標の設定 | 12/29 | そろそろ期末試験の準備をしないと。 |

学習者 S2 は授業で学んだことから何が得られただけを記録した。困難点が記録されていない。中国語母語話者ではない自分にとって（マレーシア籍）、かつて中国語を学んだように日本語を学びたい。それに、日記に多くの単語、会話のテクニック・文法など、もっと学びたいという前向きな姿勢が見られた。教科書の内容を暗記、読む。必ず予習して授業に臨むので、学んだことが自然と頭に入って効果があると自己評価している。毎回の学習状況をモニターしており、学習目標を立てて自分の学習方法を実行している態度が見られ、実施した後の成果も報告した。

表 9 学習者 S3 の学習日記

| 自律循環モデル | 日付 | 学習日記の内容の抜粋 |
|-------------------|-------|---|
| 計画と目標の設定 | 9/22 | よく話したり、よく読んだり、よく書いたりすることで練習する。クラスメートとよく会話すれば上手になると思う。 |
| 計画と目標の設定 | 10/06 | 日常会話が勉強したい。授業中他のところから学んできた単語や語句が使ってみたい。自主的に学ぶ。学びは教科書に拘らなくてドラマを見ることで字幕に沿ってゆっくりと学ぶ。 |
| 自己評価とモニター | 10/06 | 動詞の使い方はよくわからなかった。今はまだ初級の段階で仕方がない。授業の進度についていくしかないと思う。 |
| 結果についての評価または戦略の調整 | 10/20 | クラスメートとの会話はうまく行っていた。言い淀んだところはなかったの、自信が湧いてきた。学んだことは 99.9%が納得できた。 |
| 計画と目標の設定 | 10/27 | 教科書に関連することを予め読んで、予習する。 |

| | | |
|----------|-------|---------------------------|
| 計画と目標の設定 | 11/17 | 授業の前に予習する。 |
| 計画と目標の設定 | 11/24 | チャンスがあれば、歌や教科書にないものが学びたい。 |
| 計画と目標の設定 | 12/01 | いつもの通り、先生が教えてくれるものなら、学ぶ。 |
| 計画と目標の設定 | 12/15 | 相変わらず授業の進度に従って学ぼうと思う。 |
| 計画と目標の設定 | 01/05 | 期末試験で緊張しないで合格できるように。 |

学習者 S3 は授業前よく読む・話すことで教科書を予習したり、授業中クラスメートとよく会話したりする目標を立てた。授業以外に自主的に音楽やドラマなど教科書にない学習リソースを利用し日常会話を学んできた単語や語句が使いこなせるようにしている。授業中のみならず、fb でのやりとりを楽しんでいるのも日記によく書かれた。授業で学んだことで、達成感を感じ自信が湧いてきたという変化が見られた。自ら予習する方法で授業の進度についていると自己評価が示された。

表 10 学習者 S4 の学習日記

| 自律循環モデル | 日付 | 学習日記の内容の抜粋 |
|--------------------|-------|--|
| 計画と目標の設定 | 9/22 | 話すことがうまく話したい。読むこと、聞くこと、反復練習によってしっかりと覚えておく。 |
| 計画と目標の設定 | 10/06 | 単語や文法がうまく使いこなせたい。授業の数日前に予習しておこう。 |
| 計画と目標の設定 | 10/14 | 単語と会話をもっと練習したい。先生のように上手になりたい。できる限り毎日教科書を読んだり、単語を覚えたりするようにしたい。分らない文法をネットで調べる。 |
| 計画と目標の設定 | 10/20 | 単語や会話をちゃんと暗記する。頑張ろう。 |
| 計画と目標の設定 | 10/27 | うまく話したいなら、暗記や理解、多く話すことでそれを遂げると思う。 |
| 計画と目標の設定 | 11/30 | 単語をしっかりと暗記しておく。うまく話せるように頑張る。 |
| 戦略の実行とモニター | 12/29 | 授業後教科書の文法に関連する使い方がビデオや歌で聞くことで能力を強めるようにしている。 |
| 自己評価とモニター・計画と目標の設定 | | 学んだことが本当の生活の会話に応用したい。聞いた時に一瞬で分からなかったもので、書くこと、読むこと以外には聞くことにも努める。 |
| 計画と目標の設定 | 01/05 | 期末の口頭試験がうまく行くように。この間、日本へ遊びに行ったところの感想などを思い出して書いてみる。それに読んでみて大体の方向性を把握しておく。 |

学習者 S4 は授業の最初から最後まで予習する方法で単語や文法を暗記する。会話文を読んだり、聞いたりして、反復練習によってしっかりと覚えておくという目標を立てている。学習に困っていることはなかったが、日本語が学べるのは楽しいと記されている。練習方法の出来具合ははっきりとした記録が見れないが、会話能力が向上志向で、決めた学習方法で徹底的に練習していく積極的な姿勢

が見られた。授業ごとの学習状況を把握し、短所や足りないところに気づき、教科書以外の学習リソースを活用し、練習することで会話能力を高めることを意識していると見て取れる。

表 11 学習者 S7 の学習日記

| 自律循環モデル | 日付 | 学習日記の内容の抜粋 |
|---------------------------------|--|--|
| 計画と目標の設定 | 9/22 | 会話のテクニックが学びたい。 |
| 自己評価とモニター | 10/6 | たくさんの単語が学べて、嬉しかった。知らない単語があつて、ちょっと困る。ネットで調べて助かった。 |
| 計画と目標の設定 | 10/6 10/13 10/20 10/27 11/10 | たくさんの会話が学びたい。教科書の内容を予習しておくにする。もっと多くの知識が学びたい。たぶん日本語がとても好きだから。 |
| 自己評価とモニター | 10/27 | スマホを日本語モードにした。今回の授業で学んだことは助かった。 |
| 自己評価とモニター | 11/24 | ある単語で自分の意見を表そうとした時に忘れしまった。自分の力で答えを見つけた。 |
| 計画と目標の設定 | 11/24 | 宿題を早く書き終わらせる。そうすれば、授業が楽しめる。 |
| 計画と目標の設定 | 12/01 | 外国人に出会わなくても、宿題を完成させたい。 |
| 自己評価とモニター | 12/08 | あるできそうもない任務ができて、嬉しかった。録音は緊張するけど、時間が経つと共に緊張しなくなってしまったので、速く終わってしまったような気がする。 |
| 計画と目標の設定 | 12/08 | 未来に目を向け、過去の思い出に拘らずに、残りわずかの会話授業を大切にする。 |
| 自己評価とモニター・結果についての評価またはストラテジーの調整 | 12/15 | 形容詞と形容動詞が学べたので、センテンスに内容がもっと豊かになった。クラスメートとの会話練習はうまく行かなかった。自分の方法で何とか乗り越えられた。 |
| 計画と目標の設定 | 12/29 | 学んだことを使えば使うほど親しくなると思う。次の授業で知らなかった会話が学びたい。 |
| 計画と目標の設定 | 01/05 | いよいよネイティブと交流する。しっかり準備しろ。 |

学習者 S7 は日本語能力の向上のため、たくさんの会話文や会話のテクニックが学びたい目標を立てた。授業前は必ず予習、授業後は宿題を終わらせるように努力している。ネットを利用して分からない単語や知りたいことを調べたりする。学んだことを使えば使うほど上手になることを信じている。自信を持っており、自分の学習状況を忠実に振り返りをして自己評価を行う記録が見られる。学習がうまく行かなかった場合は自ら方法を見つけて解決する。それらを実行した成果を評価し、前向きなメタ認知ストラテジーを使っていると見られる。

表 12 学習者 S8 の学習日記

| 自律循環モデル | 日付 | 学習日記の内容の抜粋 |
|---------|----|------------|
|---------|----|------------|

| | | |
|----------------|-------|--|
| 自己評価とモニター | 9/22 | 50音はまだ暗記していないので、センテンスが言い間違ったり、おかしく言ったりした。 |
| ストラテジーの実行とモニター | 9/22 | もう一度ゆっくりと言い出せるようになった。 |
| 計画と目標の設定 | 9/22 | センテンスがうまく話せるようになりたい。 |
| 自己評価とモニター | 10/13 | 先生とクラスメートが速く読んだ。自分が予習していなかったで、ゆっくりしてもらえなかった。こっそりとよく読んだ。 |
| 計画と目標の設定 | 10/13 | ゆっくりとうまく話せたい。 |
| 計画と目標の設定 | 10/20 | うまく言えなかった。話し言葉があるからだと思う。今度、先生に聞いてみる。よく学ぶ。もうちょっと教科書以外の単語が学びたい。そうしたら、教室活動に応用でき、会話文が豊かになると思う。 |
| ストラテジーの実行とモニター | 10/27 | 順序に沿って順調に知識が増えるのは一番いい。これからの期末テストのため、授業後はちゃんと復習している。 |
| 計画と目標の設定 | 12/08 | 授業を休んだから、みんなの後についていける方法は、積極的にクラスメートに授業の内容や宿題を聞いてみることに思う。 |
| 計画と目標の設定 | 12/22 | プレゼントを交換するに関する言葉が学びたい。 |
| 計画と目標の設定 | 12/29 | ちゃんと宿題を終わらせたなら、いい。 |
| 計画と目標の設定 | 01/05 | ネイティブとの会話がうまく行くように。自分はネイティブとのコミュニケーションには支障があると思う。 |

学習者 S8 は授業の進度に沿って勉強して、復習する。うまく話せるようになりたいという目標を立てている。授業中困難がある時、自ら原因を探す。予習や練習が足りなかったと反省し、方法を考える。よく授業を休んだので、クラスメートに聞いたり、相談したりすることで、不足のところを補うように努力する。誠実に反省する姿勢が授業にも日記の記録にも見られた。

表 13 学習者 S9 の学習日記

| 自律循環モデル | 日付 | 学習日記の内容の抜粋 |
|----------|----------------|--|
| 計画と目標の設定 | 10/13 | 単語がもっと学びたい。 |
| 計画と目標の設定 | 10/20 | 日本語が上手になるように、毎日、本を読んだり、ビデオを見たりする。 |
| 計画と目標の設定 | 10/27 | 日本語がもっと進歩したい。教科書にない語彙を学んで自分の単語量を増やしたい。 |
| 計画と目標の設定 | 11/17 | 次の授業でたくさんの単語が学びたい。食べ物と飲み物に関する語彙が学びたい。 |
| 計画と目標の設定 | 12/01 | 対話がうまく行くように。日本の食事生活がもっと知りたい。文法がすっかりわすれていた。ネットで調べてみた。 |
| 計画と目標の設定 | 12/08 | 単語や文法をしっかりと暗記しておく。 |
| 計画と目標の設定 | 12/15 | 宿題の提出期限や授業に遅らないように。 |
| 計画と目標の設定 | 12/22 12/29 | 文法がよく分かるように。 |
| 計画と目標の設定 | 01/05 | 遅刻しないように。 |

学習者 S9 の日記に授業中の学習状況が書かれていないが、もっと進歩したい、もっと何かが学びたいなどの学習目標を立てている。自分の専門分野のハスピタリティーと関連する日本人の食事生活に

関する語彙や知識を求めている。もっと学びたいという動機が見られ、授業以外の時間で自ら学習リソースを使おうとする自律性が見られた。

表 14 学習者 S14 の学習日記

| 自律循環モデル | 日付 | 学習日記の内容の抜粋 |
|-----------------------|-------|---|
| 計画と目標の設定 | 10/06 | もっと進歩したい。みんなの後についていけるように。50音はまだ暗記してないもっと読んで、もっと練習して上手になりたい。 |
| 計画と目標の設定 | 10/13 | 数字の言い方が速く言われたので、うまくついていけなくて言えなかった。頑張って練習しようと思う。みんなの後についていけるように。 |
| 自己評価とモニター | 10/20 | ついていけるようになったけど、まだ頑張らないと。皆でセンテンスを作るのに役に立たなかった。 |
| ストラテジーの実行とモニター | 10/20 | 授業の後でも一度見たが、よくわからなかったところがある。 |
| 計画と目標の設定 | 10/20 | 授業の前に予習を、授業の後で復習をして、授業の進捗について行きたい。 |
| 自己評価とモニター | 10/27 | 日の1日から10日までの言い方が読めるが、まだ暗記してない。 |
| ストラテジーの実行とモニター | 10/27 | 授業後は自分でよく練習して暗記できるようになった。進歩して嬉しい。もっと頑張りたいと思う。 |
| 計画と目標の設定 | 11/10 | 風邪が早く治るようになりたい。そうしたら、クラスメートとインターアクションができる。 |
| 計画と目標の設定 | 11/17 | 授業中学んだことが使えるように。 |
| 自己評価とモニター | 11/17 | 毎回進歩してうれしい |
| 自己評価とモニター | 11/24 | 単語が読めない。 |
| 計画と目標の設定 | 11/24 | クラスメートに聞いて、ネットで調べた。 |
| 自己評価とモニター | 12/01 | スゲジュールを立てるために、地名を書かないと。言い方がよくわからなくて、困っている。 |
| ストラテジーの実行とモニター | 12/01 | ネットで調べても、正しい言い方が見つけたとは言えないなあ。 |
| 自己評価とモニター | 12/8 | クラスメートの発表を聞いてほんの少しわかった。速く言えば、よく聞き取れなかった。 |
| ストラテジーの実行とモニター | 12/8 | クラスメートが読む時に、字幕を見ながら理解する。 |
| 計画と目標の設定 | 12/8 | 分からないことが分かるように頑張る。 |
| 自己評価とモニター | 12/15 | また新しいクラスメートとやりとりができて、嬉しかった。どうやって日本語で相手の所属を聞くかよくわからなかった。 |
| ストラテジーの実行とモニター | 12/15 | 聞いても、わからなかった。 |
| 計画と目標の設定 | 12/15 | 日常会話で使えるような会話文がもっと学びたい。 |
| 結果についての評価またはストラテジーの調整 | 12/22 | 少しずつ進歩して、たくさんの単語がうまく読めるようになった。 |
| 計画と目標の設定 | 12/22 | 学期がそろそろ終わるので、もっと多くのクラスメートと知り合いたい。 |
| 計画と目標の設定 | 12/29 | 毎回進歩するようになりたい。もっと多くのクラスメートと知り合いたい。 |

| | | |
|----------|-------|---------------------------------|
| 計画と目標の設定 | 01/05 | ネイティブとの会話は「はい」で終わってしまわないように頑張る。 |
|----------|-------|---------------------------------|

学習者 S14 は授業の三週目以降に来たため、皆についていくような努力が見られた。例えば、授業で挫折した時、何とか進めるように工夫し、学習ストラテジーを考える。その後授業の前に予習、復習して、暗記のみならず、よくプラクティスする。学んだことが使えるように努めている。クラスメートとのインターアクションを楽しみに日常的会話をもっと学ぼうとする。分からないことがあったら、自ら答えを探す。授業後毎回のよう記録が記されている。授業の後期に、自らの進歩を感じ、日本語の勉強が楽しかったと自信がつくように変容した。日記からそのプロセスが把握できる。

表 15 学習者 S15 の学習日記

| 自律循環モデル | 日付 | 学習日記の内容の抜粋 |
|-----------|-------|---|
| 計画と目標の設定 | 9/22 | 学んだことのない物が学びたい。それに、それをちゃんと暗記する。 |
| 計画と目標の設定 | 10/06 | もっと多くのセンテンスが学びたい。そうするとネイティブに出会ったら、喋れると思う。家で本を読んでいる。 |
| 計画と目標の設定 | 10/13 | 正しく発音する。ドラマや教育のビデオを見ている。 |
| 計画と目標の設定 | 10/20 | 観光に関する日本語が学びたい。本を買って読んでいるよ。 |
| 計画と目標の設定 | 10/27 | いろいろな日本文化が学び続けたい。新しい知識が学びたい。 |
| 自己評価とモニター | 10/27 | また新しいことが学べて楽しかった。 |
| 計画と目標の設定 | 11/10 | 授業に専念する。先生が教えてくれる文法なら、学んで使いこなせたい。 |
| 計画と目標の設定 | 11/17 | 次の授業でもっとたくさん他のことが学べるように。 |
| 計画と目標の設定 | 11/24 | もっとたくさん文法、教科書にない単語が学びたい。 |
| 計画と目標の設定 | 12/01 | 観光に関する日本語能力が上手になるようになりたい。 |
| 計画と目標の設定 | 12/22 | 特別な日本語の語彙が学びたい。 |
| 計画と目標の設定 | 12/29 | 年越しのための日本語が学びたい。 |
| 計画と目標の設定 | 01/05 | 期末口頭試験でよい点数が取れるように。 |

学習者 S15 は教科書、日本文化、観光日本語、年越しの日本語などが実用性の分野に興味を示されている。自ら本を読んだり、ドラマや教育ビデオを見たりすることを通して、センテンスや新しい知識を学んでいる。暗記のみならず、発音の正確さに気になるため、自ら頑張っている。日記に困難点の記述は見られない。授業で新しいことが学べた楽しさと充実感、クラスメートとのやりとりを楽しんでいる学習態度が現れている。

表 16 学習者 S17 の学習日記

| 自律循環モデル | 日付 | 学習日記の内容の抜粋 |
|-----------|-------|--|
| 自己評価とモニター | 9/22 | 皆とやりとりができて、先に口を出すのは恥ずかしいけど、いい感じ。 |
| 計画と目標の設定 | 9/22 | 皆さんともっと親しくなりたい。 |
| 自己評価とモニター | 10/06 | 単語をたくさん学べた。自分で調べてみて、記憶に深く残すと思う。 |
| 計画と目標の設定 | 10/06 | クラスメートとうまく喋りたい。話す。 |
| 計画と目標の設定 | 10/13 | カタカナはもっと覚えられるように。 |
| 自己評価とモニター | 10/13 | カタカナは読めるけど、まだはっきりと覚えていない。 |
| 自己評価とモニター | 10/20 | カタカナは見てわかっているけど、速く読めない最後にみんなでセンテンスを作ることが面白かった。 |
| 計画と目標の設定 | 10/20 | 日本語の歌を聞いたり、字幕を見ながら歌う。もうちょっと練習する。 |
| 自己評価とモニター | 10/27 | いろいろと読めない。覚えられない。まだ練習している。 |
| 計画と目標の設定 | 10/27 | これからもっと練習するようにする。 |
| 自己評価とモニター | 11/10 | 単語はまだ覚えていない。できる動詞もまだ少ない。今日学んだことは何かネイティブと会話する時に、自分が言いたいことが言えるようになる。 |
| 計画と目標の設定 | 11/10 | 教科書を何度も読んでみようと思う。 |
| 自己評価とモニター | 11/17 | クラスメートと交流ができて、嬉しかった。 |
| 計画と目標の設定 | 11/17 | 高校で知り合った日本人と連絡が取れない。喋りたかったが、何を話題にしたらいいか分からない。 |
| 自己評価とモニター | 12/01 | 旅行のスケジュールを書いている時には、助詞の使い分けがよく間違った。 |
| 計画と目標の設定 | 12/01 | 助詞の使い分けができるように。 |
| 計画と目標の設定 | 12/29 | まだ出していない宿題を出す。 |

学習者 S17 は授業の最初の段階でカタカナを暗記するのを苦闘している記録が頻繁に出た。解決方法として自ら単語を暗記したり、何度も読んでみたり、もっと練習したりして、学ぶように目標を立てた。うまく話せるために、字幕を見ながら、音楽を聴いたり、歌ったりする。授業中問題や困難に遭った時、自ら解決策を考える。例えば、旅行のスケジュール表に助詞の使い分けに困難に遭ったので、今度は助詞の使い方ができるように頑張るという目標を立てた。だが、その目標を達成させるため、具体的な方法が書かれていない。

以上、10 人の学習日記から学習状況が如何に自律循環モデルのように発展していたかを個別的に見てきた。学習者は自律循環モデルが提示されている順番に進めでいくわけではないが、「自己評価とモニター」、「計画と目標の設定」に関しては確かに行っているとわかる。「ストラテジーの実行とモニター」、「結果についての評価または

ストラテジーの調整」などの出来具合は状況によって異なる。以下はそれぞれの共通点、相違点に注目し、考察する。

授業で学習の問題に遭ったら、解決に向けて何かをしようとする学習者 S1、S3、S8、S14 は計画を立てて、どのように困難を乗り越えるかを方法を探し、計画を立ててみた。その結果は、学習者 S1、S3 は成果を収めたので、授業の進度や教師の指示に従いながら、学習を進めていく。一方、学習者 S8 はどのように困難を乗り越えたかを感想だけ記している。学習者 S14 は予習、復習、練習で学習を励んでいく様子を記録し、そこから達成感を得た。自分が努力してきたのをプラス評価し、成果も収めたと書いている。

学習者 S2、S4、S7 は学習状況をはっきりと把握でき、そこから得た達成感があったので、もっと上手になりたいという学習意欲が湧いてきた。そして、それが次の学習のエネルギーになり、次の学習目標を立て着々進めている。さらに、その方法を実行した成果が収められた喜びを感じて、学習動機も上がってきた。このようなプロセスを繰り返していて、授業中にも前向きな心構えで積極的に学習を進めている様子が見られた。

学習者 S9、S15、S17 は授業で勉強したことを記録し、毎日の日記に必ず次の学習目標も記しているが、次回にそれを実行する結果は書いていない。自分の学習状況をどう見ているかについて、学習者 S9 はただ学んだことを記入し、記録で終わった。学習者 S15 は記録だけではなく、学んだことから得たことや楽しさも書いた。学習者 S17 なら、授業で学んだこと、またその楽しさや喜びも、クラスメートとのインターアクションを楽しむことも記録し、さらに自分の学習状況をモニターしながら、できたことやできなかったことの原因も書いた。

上述したことから、同じ「問題解決型」のタイプでも発展が違出し、「メタ認知ストラテジー」が使用されていても結果が異なるのが現状であるとわかる。日本語力が向上できるようになるための対策をとることで一致する。こういった変化から、学習評価シート、学

習日記、フェイスブックによる学習サイクルという三つのツールでポートフォリオを構成していくには、自律的な学習態度が促されたと言えるが、それを自律学習循環モデルに沿って、サイクルのように次の学習に繋がる効果を上げるには、もっと力を入れるのではないかとわかる。

4.3 教師内省

ポートフォリオのツールとしての学習評価シート、学習日記、フェイスブックにより学習者のそれぞれの学習過程も学習状況の振り返りが見られた。また、そこから生じたポジティブな学習態度も伺われた。しかし、学習者に学習状況より効率的に振り返らせるため、ポートフォリオは次のような改善点も残された。①学習日記の記述項目の再考：今回の結果には、学習計画は立てたが、その続きの記述はあまり記されていないかった。授業後新しく立てた計画を確実に実行し、実行状況を振り返らせるため、「新たな学習目標に向けて何ができただろうか。できなかったことは何か、またどう対処するか。」という新しい欄を設ける、②教師からのフィードバック：学習日記にコメント欄は設けてあるが、毎回のやりとりをみたところ、学習状況に応じたアドバイスやフィードバックは学習者の学習に役に立っているかどうかは分からないまま、単なる一方的なものになりがちである。そこで、対面で学習者の学習状況に応じたフィードバックを与えるため、今後は紙面上の振り返りを促すのみならず、学習のカウンセリングの対面時間も設けたほうがよいと考えるようになった。③e-ポートフォリオの利用：今回はfbをe-ポートフォリオとして使い、fbでお互いの意見、情報、ファイルを瞬時に分かち合えたが、アップロードしたファイルや書き込み内容をもう一度見る際にはタイムラインを遡らなければならず、利便性は必ずしも高くない。今後はウェブドライブのようなツールも併用し、使いこなせるように改善したい。

5.おわりに

ポートフォリオにより授業に対する振り返りの効果について、授業ごと学習評価シート、学習日記に書かせることによって、何を学んだか、どこまでができたか、などが分かった。また、それらと授業の成果物をフェイスブックで分かち合い、学習サイクルにより、学習過程が可視化になった。さらに、学習者の自律的な学習態度はどこまで育成できるかをさらなる遡ってみれば、学習日記の記述をみたところ、18名の学習者で10名が授業中自らの学習状況、クラスメートとのやりとりの状況などを振り返って、タスクの出来具合を自ら評価し自律性が見られた。また、授業中できなかったことに対して、よりよくできるために身の回りの人的・物的な学習リソースを応用して学習対策や改善案を考えている姿が読み取られた。次の授業のために、何かやり遂げたいという対策案も考えられた。分析した結果を Zimmerman, Bonner& Kovach (2000)が提案されている「自律学習循環モデル」(Self-regulatory cycle)と照り合わせてみれば、最初の「自己評価とモニター」、「計画と目標の設定」ができるようになっていることが分かった。

一方、「ストラテジーの実行とモニター」、「結果についての評価またはストラテジーの調整」に関して、約半分の学習者(S2、S4、S7、S8、S14)は考えたテクニックの応用状況や対策の実行について振り返って記録した。実際にどこまで応用できるか、うまく応用できない場合はどのように対処するか、続いてどのような対策を打ち出すか、などの追跡も必要であろう。また、学習方法を実施した後、その成果だけ記録している学習者もいる(S1、S3)。これらとは別に、授業ごとに新たな学習目標を立てる学習者(S9、S15、S17)がいる。授業に関する記述は少なく、今回の振り返りとずれているようだが、教科書以外、ある範囲、または多領域の学習リソースを求めて自主的に頑張っていることが確認できた。自律的な学習を促すには、学習者のそれぞれの学習スタイルが違うを認めた上、より適切な個別的学習支援を与えるべきだと示唆された。今回は学習者

の振り返りの出来具合に注目してきたが、日本語能力はどこまで伸びたかも究明していきたい。それについては今後の課題にする。

参考文献：

青木直子(2005)「自律学習」日本語教育学会(編)『新版日本語教育事典』大修館書店 pp.773-775

石塚京子・金庭久美子・齋藤 伸子(2002)「留学生支援に必要なことは何か―東京国際大学日本語補習システムの学習記録の分析―」『小出日本語記念教育研究会論文集 10』 pp.89-105

小川都(2015)「大学の日本語教育に「ポートフォリオ」評価を導入する有効性について―日本語授業の事例研究を通して―」『専修大学外国語教育論集 43』 pp.71-90

蔭山峰子(2010)「ポートフォリオの要素を取り入れた自律学習の実践」『同志社大学日本語・日本文化研究』第8号 pp.75-88

片桐準二(2014)「JF 講座受講生のポートフォリオに対する態度変化の過程 ―受講生インタビューの分析から―」『国際交流基金日本語教育紀要 第10号』 pp.7-22

古賀恵美(2007)「自律学習はどのように起きるか―自律学習につながる活動「ふりかえりシート」を取り入れた場合」『名古屋大学大学院国際言語文化研究科 日本言語文化専攻 日本語教育実習レポート』

https://www.lang.nagoya-u.ac.jp/nichigen/menu5_folder/jishu/2007/sub1.html (2017/2/16 閲覧)

呉清山(2016)「未来教育発展動向之研究」『教育研究月刊』高等教育 pp.13-27

里見文(2011)「ポートフォリオを利用した語彙学習の実践報告 ―フランスにおける学部1年次既習者クラス―」WEB 版『日本語教育実践研究フォーラム報告』2011 年度日本語教育実践研究フォーラム pp.1-9

佐藤慎司・熊谷由理(2010)『アセスメントと日本語教育-新しい評価の理論と実践』くろしお出版 pp.98-99

- 寺西和子 (2003)『確かな力を育てるポートフォリオ評価の方法と実践』黎明書房 pp.8
- 當作靖彦・中野佳代子 (2013)『外国語学習のめやす 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』公益財団法人国際文化フォーラム (TJF)
- 當作靖彦 (2014)「日本語教育におけるソーシャルネットワーキングを学ぶ」『台湾日本語教育学会 J-GAP Taiwan 第 21 回月例会』の会議資料
- 鳥井俊祐 (2015)「日本語スピーチ授業におけるポートフォリオ作成活動—中国の大学生を対象とした意識調査結果より」『北海学園大学人文論集 59』 pp.1-17
- Barry J. Zimmerman, Sebastian Bonner & Robert Kovach 林心茹譯 (2000)『自律学習 Developing self-regulated learners:beyond achievement to self-efficacy』源流出版
- 舟橋宏代 (2006)「ポートフォリオを利用したフリートークの「会話」授業—学習者の自律学習を支えるために—」『鈴鹿国際大学紀要 12 号』 pp.161-173
- 松井玲子・西山恵子 (2015)「成人学習者の学習を支えるポートフォリオ評価の試み」『国際交流基金日本語教育紀要 第 11 号』 pp.127-140
- 松本順子 (2009)「上級日本語クラスにおけるポートフォリオ評価の試み —学びのプロセスを評価する—」WEB 版『日本語教育実践研究フォーラム報告』 2009 年度日本語教育実践研究フォーラム pp.1-8
- 三宅若菜・福島智子 (2015)「e ポートフォリオを利用した大学講義理解の試み —専門科目の講義をもとに—」『美林言語教育論叢 11』 pp.95-108
- 横溝紳一郎 (2000)「ポートフォリオ評価と日本語教育」『日本語教育 107 号』 pp.105-114
- 廖伯承・今福宏次 (2015)「Mahara を用いたパスポート型 e ポート

フォリオの構築を目指して」『台湾日本語教育学会 J-GAP Taiwan
Can-do 実践研究国際シンポジウム 予稿集』 pp.90-97

林盈萱・黄宏仁 (2014)「学習ストラテジーを取り入れたタスクベース型日本語会話授業のデザイン」『台湾應用日語研究第十三期』
pp.35-57

林盈萱 (2009)「日本へ留学する台湾人大学院生の自律性を高める会話教育—アクションリサーチを通じて—」『留学生教育 14 号』
pp.23-30

